

三陸沿岸道路 宮古中央インター線が開通して1年 復興資材の輸送効率化や、救急搬送支援で効果

平成25年3月23日に開通した三陸沿岸道路 宮古中央インター線について、開通後1年が経過しました。最新の交通状況の調査結果、および開通による整備効果を取りまとめましたのでお知らせします。

◎「宮古中央インター線」開通による周辺道路の交通量の分散がみられます。

●交通量の変化(午前7時～午後7時)

	開通前(H25.3.13)	1ヶ月後(H25.4.24)	1年後(H26.3.19)
千徳大橋	—	6,300台/12時間	7,500台/12時間
花輪橋	9,600台/12時間	6,800台/12時間	6,600台/12時間
小山田橋	14,300台/12時間	12,800台/12時間	13,200台/12時間

◎開通1年間の整備効果(別添資料)

- ・復興資材の輸送効率向上で、三陸地域の復興を支援
- ・救急搬送の時間短縮等で、救急医療に貢献
- ・交通の分散により渋滞が緩和し、市内の移動短縮で利便性向上

◎ヒアリング調査結果でも、多くの道路利用者が整備効果を実感されています。

- ・千徳大橋を使うことで、渋滞を回避して輸送できるようになり輸送時間も短縮したので、1台当たりの輸送回数が増加し、開通前と比べ輸送量が倍増しました。(生コンクリート輸送業者のコメント)
- ・千徳大橋が出来て混雑なく閉伊川を渡れるようになったため、搬送のほとんどが千徳大橋を使っており、花輪地区から宮古病院への搬送所要時間が短縮され、救命率の向上に繋がります。(救急救命士のコメント)
- ・松山方面から市内への通勤で、花輪橋まで迂回し通勤していましたが、渋滞で非常に時間がかかっていましたので、千徳大橋ができて15分程度の時間短縮となり、ゆとりを持って通勤できています。(通勤利用者のコメント)

発表記者会:岩手県政記者クラブ、宮古記者クラブ、東北専門記者会

〈問い合わせ先〉

国土交通省 東北地方整備局 三陸国道事務所

電話番号 0193-62-1711(代表)

副 所 長 としま まもる 戸嶋 守 (内線204)

調査第一課長 なりた しんたろう 成田 信太郎 (内線451)